

学習会の大きなテーマ「情報提供のスキル向上」

本郷寛子 ソーシャルワーク修士、保健学博士、国際認定ラクテーション・コンサルタント

Enhancing the communication skills for providing evidence-based information on breastfeeding

Hiroko Hongo, MSW, PhD, IBCLC

【1】「母乳育児支援におけるエビデンスを読み取る力をつけよう」

Enhancing critical reading skills on evidence for breastfeeding

近年「エビデンス」（科学的根拠）というキーワードは広く認識されるようになってきた。母乳育児支援は、個々の支援者の個人的意見や根拠のない慣習ではなく、エビデンス（科学的根拠）に基づいたうえで、母親の背景・文化・意向を尊重して行う必要がある。しかし支援の現場では「エビデンスレベルの高い情報」よりも、支援者の個人の知識や施設の慣習に基づく実践が行われていることも少なくない。比較的容易に入手できる乳児栄養の情報は矛盾した不正確なものも多い。支援者がエビデンスやそれを読み解くリテラシーについて新たに学んだり、確認したりできる機会もほとんどないかもしれない。このセッションで、参加者は母乳育児支援におけるエビデンスの意味を知り、それを読み解く基本的なリテラシーを獲得、もしくは再確認することを目的とする。また、とっつきにくいと敬遠されがちな疫学研究的解釈のしかたなどについても触れたい。

【学習目標】

参加者は以下のようなことができるようになる

1. 母乳育児支援におけるエビデンスの意味を知る
2. エビデンスを読み解く基本的なリテラシーを獲得する
3. 疫学研究的解釈の基本を知る

【2】「情報提供のコミュニケーション術」

Communication skills for providing evidence-based information on breastfeeding

支援者が個人的に信じている方法をアドバイスするのではなく、個人的なバイアスのない情報を伝え、十分な情報を提供した上での母親の意思を尊重するのは、母乳育児支援におけるコミュニケーション術の基本である。エビデンスを母親にどう伝えるかによって、相手が受取る印象が変わることもある。エビデンスは「こうすべき」という固定されたものではなく、母親自身が自信をもって意思決定することを支えるためのツールである。このセッションでは、母親の話を傾聴したうえで、エビデンスを用いながら、指示や押しつけにならないように、母親が自信をもって自分なりの母乳育児ができるように支援するためのコミュニケーションの方法について学んでいきたい。

【学習目標】

参加者は以下のようなことができるようになる

1. 基本的なコミュニケーションスキルを確認する
2. アドバイスと情報提供の違いを知る
3. 母親が自信をもって母乳育児ができるようなコミュニケーションの方法を知る

【参考文献】

1. 本郷寛子・新井基子・五十嵐祐子(2012)お母さんも支援者も自信がつく母乳育児支援コミュニケーション術, 南山堂
2. 本郷寛子(2015) 科学的根拠 (エビデンス) に基づく実践とナラティブ・アプローチ In (NPO法人日本ラクテーション・コンサルタント協会編) 母乳育児支援スタンダード第2版, 医学書院
3. IBLCE IBCLC の職務行動規範(2011, 2015 updated)
4. 三砂ちづる(2005) 疫学への招待: 周産期を例として, 医学書院
5. 森臨太郎・森享子(2018) ほんとうに確かなことから考える妊娠・出産の話: コクランレビューからひもとく, 医学書院
6. 齋藤清二(2011) ナラエビ医療学講座: 物語と科学の統合を目指して, 北大路書房
7. UNICEF・WHO 著(200)/BFHI2009 翻訳編集委員会訳(2009) 赤ちゃんとお母さんにやさしい母乳育児支援ガイドベーシック・コース, 医学書院, 2009